

# 会津坂下町片門地区

## 1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 地域の量販店と協力した「会津産ウイスキー」の製造に向け、その原料を提供するため、土地利用計画に基づき醸造用大麦を導入し、所得を確保する。



## 2 生産概要（中心的な担い手の概要）

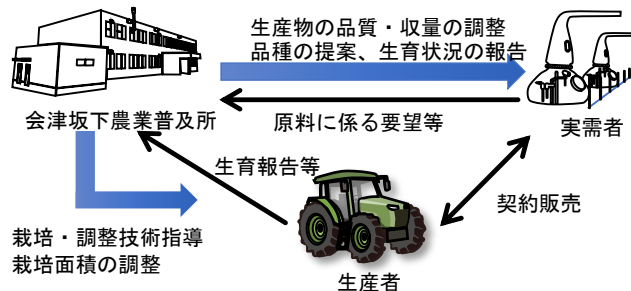
- 【作付面積】水稲：40ha、ソバ：25ha（R3）  
水稲：40ha、ソバ：25ha、大麦：2.1ha(R5)
- そばは製粉、製麺まで行い自社販売を行っている。
- 水稲栽培の効率化を進めるため、同地域での基盤整備に向けた話し合いを提起し、中心的な担い手として位置づけられている。



## 3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

### <生産者と実需者との繋がりを軸に土地利用型作物を普及する。>

- 戦略作物等の土地利用型作物については、生産者と実需者の繋がりを軸に、収量・品質を確保できるように情報提供と技術指導を行い、農業者の所得の安定を図る。
- 醸造用大麦の品質確保（玄そば等の混入防止）に向け、穀粒選別機の大麦への活用を検討する。



## 4 取組成果

### <大麦生産の高位安定化を実現>

- 適切な施肥設計と発生に応じた雑草対策により、小麦【参考】の地域平均単収を大幅に上回る単収を確保した。  
単収：288kg/10a（参考：管内の単位収量（小麦）150kg/10a）
- 選別機の調製試験により夾雑物の混入を実需者基準0.04%以下を達成した。

### <安定した農業所得の確保>

- 実需者の求める大麦を生産した結果、水稲並みの収益を確保した。（商取引価格のため詳細は非公表）



## 5 課題（6年度のポイント）

- 醸造用に適した加工特性を有する大麦を生産するため、施肥量および施肥時期を変えた肥培管理が粗タンパク質含有量に及ぼす影響を調査し、醸造用大麦の栽培技術を確立する。
- 今後予想される醸造加工量の増大に対応するため、播種密度が収量に及ぼす影響を調査し、収量向上にむけた栽培技術を確立する。